

次世代郊外まちづくりとは？

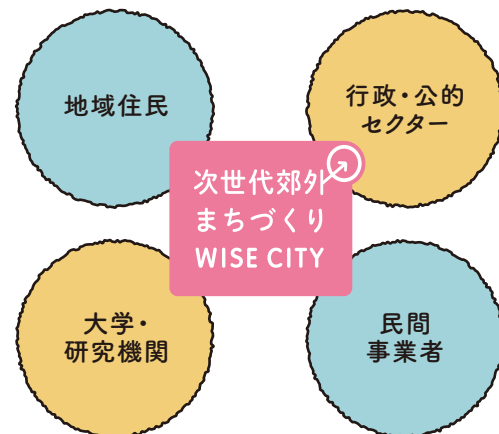
横浜市と東急電鉄が2012年4月に締結した「次世代郊外まちづくり」の推進に関する協定に基づき、東急田園都市線沿線の住宅地＝「既存のまち」を舞台に、大都市近郊の郊外住宅地が抱えていくさまざまな課題を、地域住民・行政・大学・民間事業者の連携・協働によって解決していく、従来にはない住民参加型・課題解決型プロジェクトです。

住民の高齢化や若い世代の減少、住宅やインフラの老朽化、コミュニティの希薄化といった多様な課題を、新しいまちづくり手法によって解決し、良好な住宅地とコミュニティの持続・再生を目指しています。

2013年には、「次世代郊外まちづくり基本構想2013－東急田園都市線沿線モデル地区におけるまちづくりビジョン」を発表し、「豊かさ」「暮らし」「住まい」「土台」「仕組み」の5つのビジョンを提示。たまプラーザ駅北側地区（横浜市青葉区美しが丘1・2・3丁目）をモデル地区として、住民参画の取り組みや社会実験などさまざまな取り組みを行っています。2017年4月には協定を更新、田園都市線沿線への展開も視野に入れ、活動を推進しています。

詳しくはこちら <http://jisedaikogai.jp/>

基本理念



1. 人、暮らし、コミュニティを最重要視した「既存のまち」の持続と再生
2. まちづくりの施策、事業の推進を通じた諸分野の課題解決
3. コミュニティ・リビングの推進
4. 建物や都市機能の更新・再生と、郊外住宅地を持続させていくための「仕組みづくり」の双方を一体化したまちづくり
5. 「産・学・公・民」連携、協働による実践

次世代郊外まちづくり
まちぐるみの保育・子育て活動 まとめBOOK

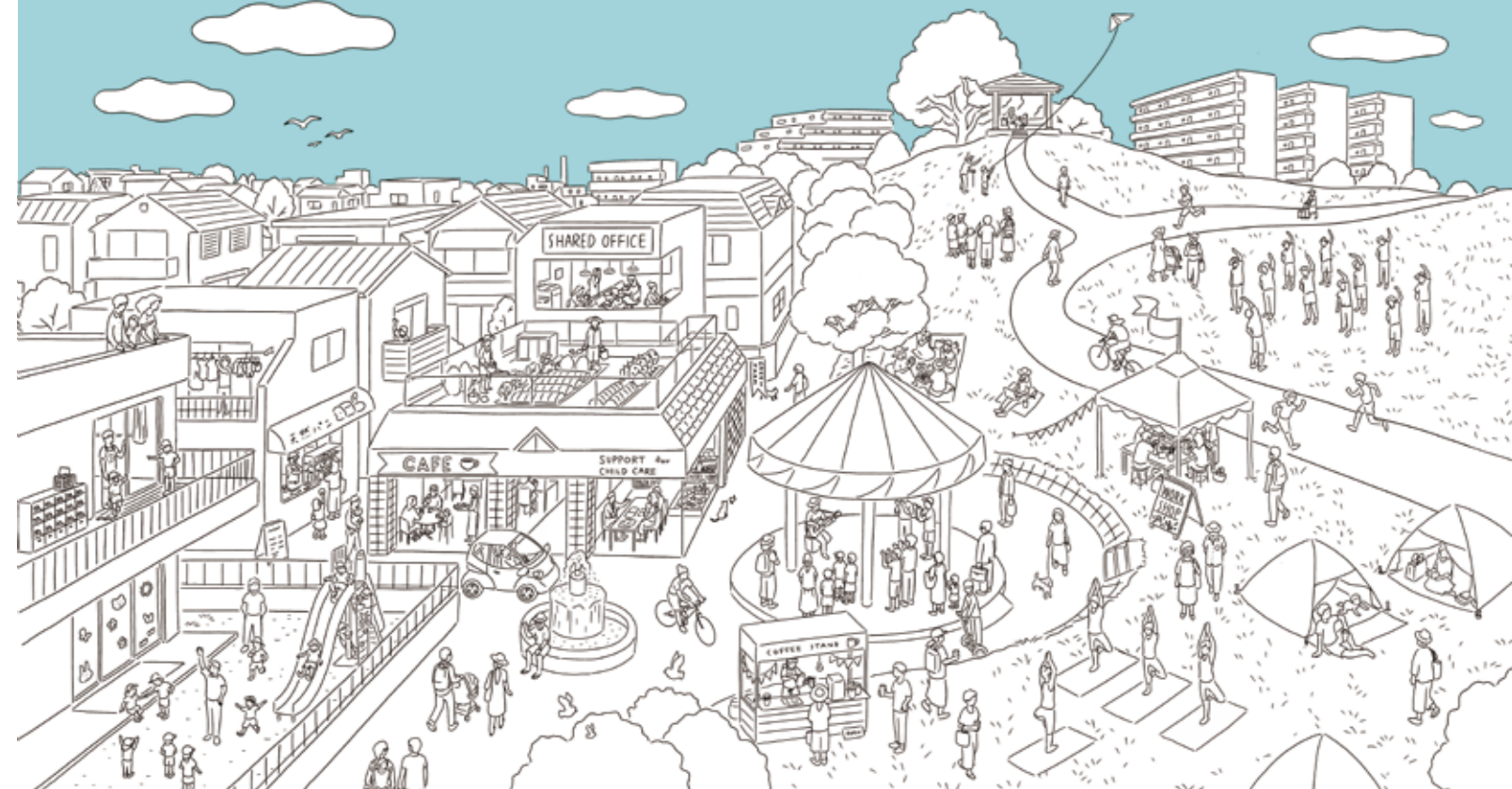
発行日：2019年4月1日
発行：横浜市／東京急行電鉄株式会社

次世代郊外
まちづくり
WISE CITY

まちぐるみの 保育・子育て活動 まとめBOOK



地域とつながり、はぐくむ。
まちぐるみの保育・子育てから
豊かな暮らしを考える。



“まちぐるみの保育・子育て”の これまでとこれから



次世代郊外まちづくりでは、2014年から「まちぐるみの保育・子育て」の実現に向けて、実験的な活動を進めてきました。
保育・子育てを通して見えてくる、郊外の豊かな暮らしとは？
「まちぐるみの保育・子育て」活動の、これまでとこれからをご紹介します。

次世代郊外まちづくり基本構想

地域との
つながり

安心できる
子育て

少子高齢化

まちの課題の 抽出と ビジョンづくり

モデル地区を策定し、「次世代郊外まちづくりワークショップ」や「たまプラ大学」を通じて、地域が抱える課題を抽出、これからの暮らしを考える。

P.04-09

みんなを 巻き込む つながる

たまプラザ地区の保育・子育て事業者同士がゆるやかにつながり、顔の見える関係をつくることで、まちぐるみの保育・子育ての礎を築く。

P.10-13

まちに 広げる はぐくむ

新たなプレーヤーが増えたり、活動の拠点となる場づくりをしたり。まちぐるみの保育・子育てを具現化するさまざまな活動を広げていく。

P.14-15

郊外で 豊かに 暮らす・働く

まちぐるみの保育・子育てを基盤にして、“住む”と“働く”が融合した、郊外住宅地における豊かで新しい暮らし方を考え、実現していく。



HISTORY

4月 「次世代郊外まちづくり」の推進に関する協定締結
6月 モデル地区選定
12月 「次世代郊外まちづくり」モデル地区アンケート調査

2012

11月



「たまプラ大学 まちの保育園 ～地域コミュニティの現場から～」開催

2013

6月 「次世代郊外まちづくり基本構想2013」発表
10月 モデル地区を中心に保育・子育ての活動や施設、関係団体等の調査・ヒアリング
8月 「住民創発プロジェクト」スタート
11月 美しが丘中学校連携 特別授業「シビックプライドについて」

2014

1月



「子ども・子育てタウンミーティング」スタート

2015

1月 美しが丘中学校連携
学習プログラム「職業インタビュー」

2016

3月



3月 美しが丘中学校連携
「シビックプライド～美中生が考える明日のまち」

5月



「WISE Living Lab さんかくBASE」オープン

2017

4月 「次世代郊外まちづくり」の推進に関する協定を更新
6月 「WISE Living Labサポート企画」スタート
12月 「ファミリーリソースプロジェクト」スタート

2018

10月



「CO-NIWA たまプラザ」オープン

11月 元石川高校連携
アントレプレナーシップ授業
「多世代交流の場を考えよう」

これからの暮らしを考える「次世代郊外まちづくり」

“若くて元気、きれいで安全”。かつてはそんなイメージがあった郊外の住宅地は現在、住民の高齢化や建物の老朽化といった課題を抱えています。さらにライフスタイルや住まいへの意識の多様化によって、若い世代の郊外離れが進行し、このままでは街は活気を失い、衰退してしまうのではないかと危惧されています。

こうした問題意識から、2012年4月、横浜市と東急電鉄は公民協働で「次世代郊外まちづくり」の取り組みを推進することに合意し、包括協定を締結。基本構想の策定にあたっては、モデル地区（横浜

市青葉区美しが丘1・2・3丁目）を選定し、地域の方々と一緒に、まちの課題を抽出しビジョンをつくるための「次世代郊外まちづくりワークショップ」（全5回）や「たまプラ大学」（全6回）などを行いました。

そして、2013年6月には、「東急田園都市沿線モデル地区におけるまちづくり基本構想」を策定。2017年の同協定更新後も引き続き、「これまでのまち」の暮らしやコミュニティを重視しつつも、新しい発想で、これからの時代に合った郊外住宅地の再生に向けたプロジェクトを続けています。

「まちぐるみの保育・子育て」の実現を目指して

良好な住宅地とコミュニティの持続や再生にあたっては、保育・子育て環境の向上が欠かせません。「まちぐるみの保育・子育て」というキーワードが初めて登場したのは、2012年11月に開催された「第2回たまプラ大学」でのこと。その後、住民・学識者との意見交換を経て、次世代郊外まちづくり基本構想の重要施策となりました。

働く女性が安心して子どもを預けられる環境をさらに整備すること。家庭の中で子育てする人が孤立しない仕組みや、未来を担う子どもたちのための多様な教

育と環境づくり。さらには、共働きの若い夫婦や近い将来お母さんになる女性など、これから自分たちが暮らすまちを選ぶ人たちが、安心して子どもを生み、育てていけるように……。

次世代郊外まちづくりでは、保育事業者だけでなく、まちの誰もが子育てに参加でき、地域やコミュニティとの関わりの中で満足感や幸福感を得られる基礎をつくるため、2014年に「子ども・子育てタウンミーティング」をスタート。「まちぐるみの保育・子育て」の実現を目指して、実験的な活動を進めています。

みんなを 巻き込む つながる

PART1



タウンミーティング

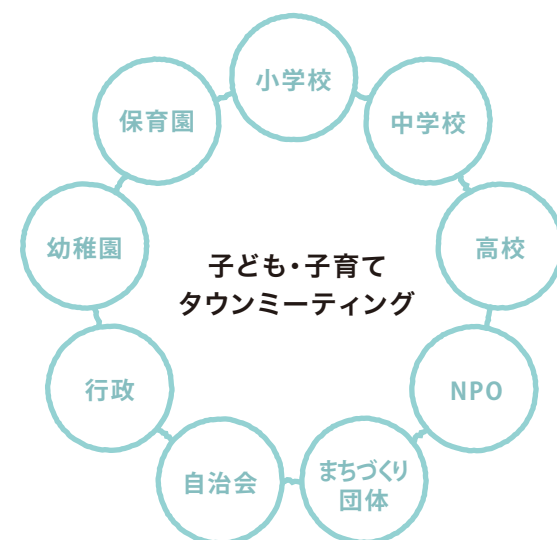
保育に関わる人たちが、 緩やかにつながり語り合える場をつくる

保育・子育てに関する地域特性や課題、今後取り組んでいくべき活動の姿を探るため、次世代郊外まちづくりでは、美しが丘小学校、美しが丘東小学校、美しが丘中学校、美しが丘保育園、民生委員などへのヒアリングを実施しました。

そこで出てきたのは「事業者間の交流が少ない」という問題。たまプラザ地区ではさまざまな保育・子育て事業者が活動していますが、横の連携はもちろん、年代を超えた縦の連携や交流が希薄だということがわかりました。

そこで2014年、たまプラザ地区の保育事業者、小中学校、学童保育、NPOや自治会が一堂に会し、みんなが緩やかにつながれる場として、「子ども・子育てタウンミーティング」をスタート。

タウンミーティングは、これまで全17回(2019年2月現在)行われ、組織や所属の壁を超えた交流の場として、現在も続いています。



対話から広がっていく、地域のつながり

学び



ワーク ショップ



対話



学び

「乳幼児教育と市民参加のまちづくり」「コミュニティと子育て」など、専門家を招き、国内外の事例などを通して「まちぐるみの保育」を学ぶ勉強会。

ワーク ショップ

「子育て支援」「交流の場づくり」「親子の関係性について」など、毎回テーマを設定。地域の情報や課題をみんなで共有し、議論する。

対話

保育事業者同士が顔の見える関係をつくること、また家庭や地域とつながっていくための仕組みやプロジェクトを生み出すことを目指した交流の場。

キーワードは“まちぐるみの保育”

きっかけは、ある講座から

たまプラ大学 第2回

まちの保育園
～地域コミュニティの現場から～

講師 松本理寿輝さん まちの保育園・こども園



子どもの力
対話の力
コミュニティの力

こんな保育園ができれば



先輩パパ＆ママが動き出すべき

「子どもには大人をつなげる力があります。子どもがまちに出ていくことで、さまざまな大人と交わり、まち全体が豊かになっていくと思うんです」

「まちぐるみの保育・子育て活動」がスタートするきっかけになったのは、「まちの保育園・こども園」の代表・松本理寿輝さんを招いた講演会でした。コミュニティの中で子育てすることの大切さを学んだ参加者からは、「たまプラでもやってみたい!」という声が多数。その後の取り組みへとつながっていきました。

学んで交流して語り合う 子ども・子育てタウンミーティング



地域の保育関係者がゆるやかにつながる場を目指して、2014年12月にスタート、2019年2月まで全17回開催されている「子ども・子育てタウンミーティング」。その様子を、参加者や登壇者のみなさんのコメントで振り返ります。



“

まちづくりを
考えたとき、
子どもは宝。

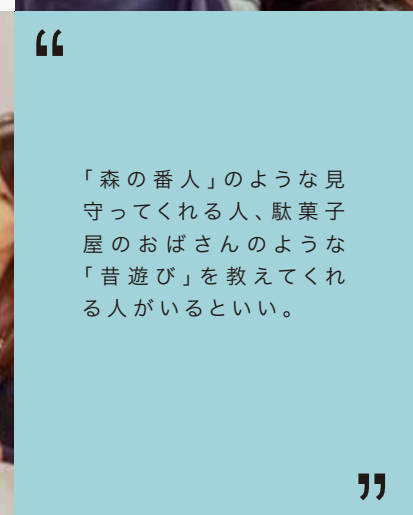
”



“

自分がかつて
体験した
とても楽しかったことを、
今の美しが丘の
子どもたちは
体験できている
でしょうか？

”



“

「森の番人」のような見
守ってくれる人、駄菓子
屋のおばさんのような
「昔遊び」を教えてくれ
る人がいるといい。

”



“

大人がもし夢や希望を持ってい
なかったら、子どもたちも持つことは
できません。この美しが丘は15年
後、どのようなまちになっていくの
でしょうか。どのような人を育てて
いきたいでしょうか。じっくり考え
てみる必要があるでしょう。

”



“

このタウンミーティングのように、
幼稚園や保育園、
小学校や中学校といった
垣根を越えて集まっている
地域はなかなかない。

”



“

子育て支援は
コミュニティの責任。

”



“

将来の子どもたちに、今、私
が何ができるかを考えてみた。
行動として挨拶をする、愚痴
を聞いてくれる人を持つ、自
分の得意なことをできる場を
持つ。卒業式などに地域の方
をお招きし、子どもたちの成
長をみんなで祝う。

”



“

保育園をより活用する。
高齢者を含め
地域の方に開放する
機会をつくって
いくのはどうか。



”



“

近所で
「お願いします」を
言い合える
関係が理想。

”



“

ふだんは違うステージに立っている
人たちが集まって、このまちの一人
ひとりのことを大事に思っている。
このまちが大好きで、愛していける
ようにと願っている。それがとても、
すばらしいことだと感じた。

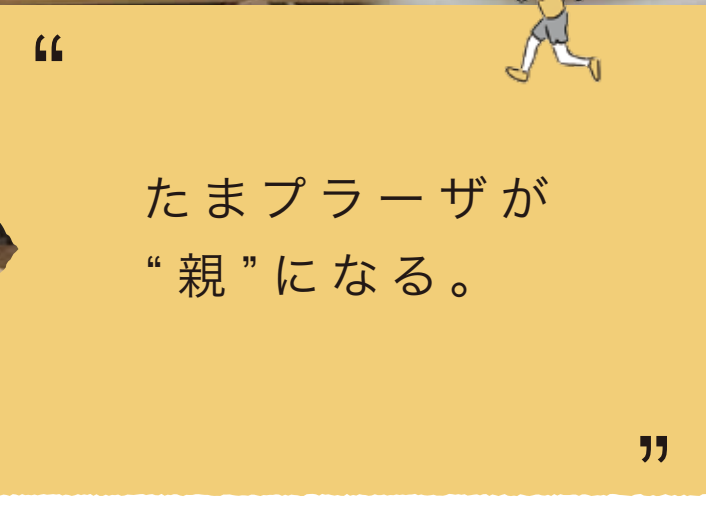
”



“

たまプラーザが
“親”になる。

”



子ども・子育てタウンミーティング 実施日程



1	2014/10/21 イタリアの小都市、レッジョ・エミリアとの対話 ～子どもが真ん中にある乳幼児教育と 市民参加(参与)のまちづくり～ 講師：立教女学院短期大学 幼児教育科 森真理准教授 場所：3丁目カフェ	9	2016/8/1 子育てサポートシステム 場所：たまプラーザ地域ケアプラザ
2	2014/12/5 これからの子育てと教室を考える 遊びを保障すること 講師：武蔵大学 武田信子教授 場所：美しが丘東小学校	10	2016/11/29 参加者同士で話したいこと 場所：たまプラーザ地域ケアプラザ
3	2015/2/9 「子どもの場づくり」と「きめ細やかな子育て支援」 場所：たまプラーザ地域ケアプラザ	11	2017/9/22 子育てで気になることを語る 場所：たまプラーザ地域ケアプラザ
4	2015/8/4 多様なニーズに合わせた子育て支援 場所：たまプラーザ地域ケアプラザ	12	2017/12/9 どのように家庭をつなげていくか 場所：WISE Living Lab
5	2015/10/20 顔の見える関係性づくり 場所：たまプラーザ地域ケアプラザ	13	2018/2/25 ファミリーリソースプロジェクトについて 場所：WISE Living Lab
6	2015/12/8 気軽に集まれる仕組みややり方考えるフェーズへ 場所：たまプラーザ地域ケアプラザ	14	2018/6/26 新施設を含めた横のつながりの思考地区 場所：WISE Living Lab
7	2016/2/12 交流の場づくりのきっかけを考える 場所：たまプラーザ地域ケアプラザ	15	2018/9/9 防災について取り組んでいること 場所：WISE Living Lab
8	2016/5/10 顔の見える場づくりを考える 場所：たまプラーザ地域ケアプラザ	16	2018/12/3 タウンミーティングのこれから 場所：WISE Living Lab
		17	2018/2/17 CO-NIWA 子育て施設見学ツアー 場所：美しが丘ワーキングスペース

参加団体

(五十音順)

・アートチャイルドケアろりぼったまプラーザ
・いずみ文庫
・イトーヨーカドー 育児相談員
・美しが丘カフェ
・美しが丘子育て広場
・美しが丘小学校
・美しが丘中学校
・美しが丘どろんこ保育園
・美しが丘東小学校
・美しが丘ベビリー保育園
・美しが丘地区連合自治会
・親と子のつどいのひろば「ぶーぶーしえすた」
・学校・地域コーディネーター
・キッズベースキャンプα たまプラーザ
・木下の保育園たまプラーザ
・グローバルキッズ美しが丘保育園
・グローバルキッズたまプラーザ保育園
・市民図書室
・主任児童委員
・小学館アカデミーたまプラーザ保育園
・スターチャイルド《たまプラーザナーサリー》
・たまプラーザ こどもの詩保育園

・たまプラーザ ベビリー乳幼児室
・たまプラーザぼんた保育園
・たまプラーザもみじ保育園
・たまプラー座 まちなかパフォーマンス プロジェクト
・といろきずたまプラーザ保育園
・東洋英和女学院大学付属かえで幼稚園
・特定非営利活動法人 あではで神奈川
・特定非営利活動法人 美しが丘放課後キッズクラブ
・特定非営利活動法人 ワーカーズコレクティブパレット
・はまっ子ふれあいスクール
・パレット保育園・たまプラーザ
・ピッピおやこの広場 はっぴい
・保育型発達支援 というキッズ たまプラーザ教室
・民生委員
・メーブル
・元石川高等学校
・横浜市青葉区社会福祉協議会
・横浜市青葉区役所
・横浜市美しが丘保育園
・横浜市学校カウンセラー
・横浜市たまプラーザ地域ケアプラザ



まちに 広げる はぐくむ

PART2

場づくり・イベント

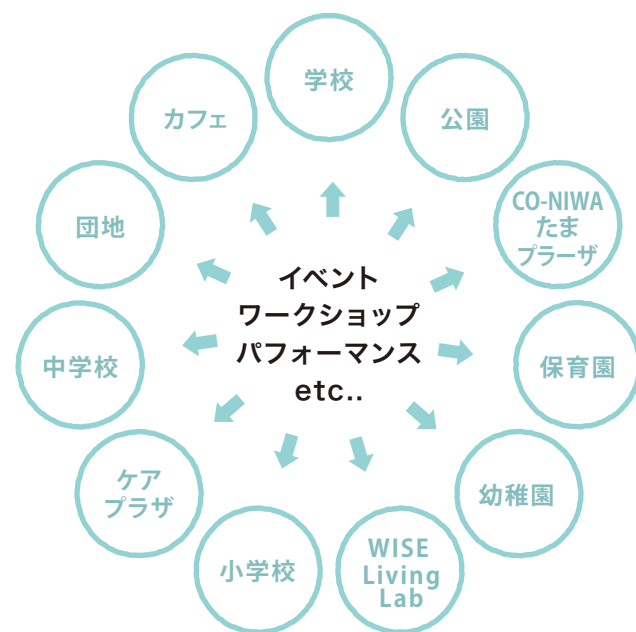
まちのあらゆるところで、さまざまな活動が 自然と生まれる仕組みづくり

保育・子育てを支える人たちのネットワークが生まれる一方で、そのつながりをさらにまちに広げようという動きが生まれています。

タウンミーティングの対話から生まれた「ファミリーリソースプロジェクト」も、そのひとつ。保育・子育て活動に関わる人たちと、子育て世帯や子どもたちが一堂に会する場をつくりたいという想いから、2017年にスタートした実験的なプロジェクトです。

また、次世代郊外まちづくりの活動拠点として、2017年に整備された「WISE Living Lab」では、地域のママによるワークショップや子どもが参加できるイベントを多数開催。2018年には、“まちぐるみの保育・子育て”を実現するための地域利便施設として「CO-NIWA たまプラーザ」が誕生しました。エリアマネジメント団体も立ち上がり、ハードとソフトが一体となったまちづくりを進めています。

プロジェクトや活動拠点と連携することで、まちぐるみの保育・子育ての輪はさらに広がりつつあります。



地域や家庭とつながる ファミリーリソースプロジェクト



ワークショップ	保育・子育て情報交換	座談会	質問コーナー
読み聞かせ (おはなし会)	子どもグッズ交換会	セミナー	意見交流

「ファミリーリソースプロジェクト」とは、タウンミーティングでの対話から生まれたイベント。タウンミーティングをきっかけにできたつながりをまちにも広げていきたい、子育て家庭への発信はもちろん、保護者の意見も聞いてみたい、という想いから、2017年12月にスタートしました。

これまでに全4回開催され（2019年2月現在）、毎回、子ども向けのワークショップや読み聞かせ、グッズ交換会のほか、保護者同士の情報交換や座談会、セミナーなど、さまざまなプログラムを実施しています。

子育てで家庭と、それを支える側がつながることで、地域がより豊かになる。そのきっかけになることを目指しています。

実施日程		場所
1	2017/12/9	WISE Living Lab
2	2018/2/25	WISE Living Lab
3	2018/9/9	WISE Living Lab
4	2019/2/17	WISE Living Lab PEOPLEWISE CAFE CO-NIWA たまプラーザ

まちぐるみの保育・子育て活動の広がり

これまで次世代郊外まちづくりが行ってきた「子ども・子育てタウンミーティング」や「ファミリーリソースプロジェクト」以外にも、たまプラーザ地域には、まちの人たちが企画する活動がたくさん！保育・子育て活動の拠点となるスポットとともに、ご紹介します。

お気に入りの
場所を
書き込んで
みよう！

地域での取り組み



たまプラー座
まちなかパフォーマンス
プロジェクト



美しが丘カフェ

CO-NIWAたまプラーザ



貫通広場



店舗前テラス



たまプラハロウィン



ファミリーリソース
プロジェクト

働く・暮らす・育てるが
融合した地域利便施設

居心地のいい広場やテラスの
ほか、カフェ、保育園・学
童保育、コワーキングスペ
ースなどが一体に。「ドレッ
セ WISE たまプラーザ」の低
層部にあり、次世代郊外ま
ちづくりが推進する「コミュ
ニティ・リビング」(P.15)
を具現化した地域利便施設。

3丁目カフェ



子ども・子育てタウンミーティング



美しが丘3丁目

美しが丘第六公園

美しが丘第二公園

美しが丘第四公園

美しが丘第三公園

美しが丘第七公園

元石川小学校

美しが丘4丁目

山内公園

美しが丘1丁目

美しが丘
第五公園

美しが丘5丁目

美しが丘
第八公園

美しが丘中学校



美しが丘中学連携
シビックプライド授業

美しが丘小学校



美しが丘
ダブルダッチクラブ

WISE Living Lab さんかくBASE



子ども・子育て
タウンミーティング



PEOPLEWISE CAFE
ママフェス



保育・子育て情報が集まる場

「次世代郊外まちづくり」の情報発信や活動
拠点として整備され、「WISE CITY」(ワイズ
シティ)の体現に向けた機能を持つ3棟から構
成される。まちに開かれた「PEOPLEWISE
CAFE」も併設、子育て家庭を対象にしたイベ
ントやワークショップなども多数開催。



ファミリーリソース
プロジェクト



さんかくBASE
夏まつり

美しが丘公園



こどもログハウス



桜まつり



夏祭り

横浜市たまプラーザ 地域ケアプラザ



子ども・子育て
タウンミーティング

モデル地区DATA

横浜市青葉区美しが丘1～3丁目

	世帯数	人口
美しが丘1丁目	2,501	5,147人
美しが丘2丁目	2,889	7,270人
美しが丘3丁目	1,199	2,874人

(横浜市統計ポータルサイト/2019年1月現在)

PART3

コミュニティ・リビングとは？

小さなお子様から高齢者まで、自宅で安心して暮らせることを目指し、住まいから歩ける範囲に暮らしに必要な機能（コミュニティ、医療、保育、子育て、教育、環境、防災、移動、就労など）を適切に配置し、それらを密接に結合させていく考え方です。「コミュニティ・リビング」が実現することで、住まいから歩いて行ける距離に暮らしに必要な機能が揃うことになり、多世代の住民の暮らしや、交流・活動が活発になると期待されています。

